

忘れがたき日本語の基礎

わす

にほんご

きそ

ピ・タ・パラカン

日本語が母国語ではないほくにとって、30年も前に、大学の4年の間に集中的に習った日本語の基礎はいまだにしぶとく残っている。しぶとく、というのは、時々その基礎へのこだわりを捨てることができればもっと楽になるのに、と感じるからだ。それほど最近耳に入ってくる日本語には生理的に嫌なものが多い。

まず、もう抵抗のしようもないが、「らヌキ言葉」は耐えられない。「食べれる」、「見れる」といった類いのものだ。最初は若い人だけの現象かと思っていたが、その親の世代も今ほとんど全員そういう話し方になってきているから、恐ろしいと言う他ない。20年後にはおそらく「食べられる」や「見られる」が死語になってしまうと思うと、絶望的な気分になる。学校でこのような根本的な言葉遣いの間違いを直していないというのも愕然とする事実だが、最近の公立学校では秩序を保つだけで精一杯という話を聞くと、文法のことを言っている場合ではないかも知れない。

もう一つ神経にさわるのは、「……的に」の使い方だ。本来副詞として広く使われるものだが、このころ、例えば「あなたとして」とか、「あなたの立場で

は」といった時に、「ピ・タ・さんの的にはどうですか」ときかると本当にムカツク！まあ、これが一過性の流行り言葉にすぎないことを祈っている。

ついでにもう一丁。「……系」の乱用は気にくわない。この国ではもともと物事を必要以上に分類したがる傾向を感じる。特にほかの専門分野の音楽では、これはロックとか、あれはジャズとか、決めなければ聴き方が分からないような不思議なところがあって、聴く人がわざわざ音楽の楽しさを狭めているような気がする。そして最近はずべてが「……系」で表現されるようになってきた。「ロック系」、「ジャズ系」、「カントリー系」などで、いっしょくたにして欲しくないものまでが安易に一つの「箱」に片付けられてしまう。

「渋谷系」とか「新宿系」にいたっては、その界限で作られるものがすべて似通っているということだろうか。

日本語について書いて欲しいと依頼されたので、普段は黙って我慢している現象のことをつつい書きたくなくてしまった。日常的に指摘するのは自分の子供達の言葉遣いだけだが、すぐうるさい親父系になってしまう。それでもぼく的にはいいんだけどね……。

(ブロードキャスター)

表紙エッセイ 忘れがたき日本語の基礎 ピーター・バラカン(ブロードキャスター)	Essay My Authentic "British" Japanese Peter Barakan (Broadcaster)
読者から	From Our Readers
教育実践レポート⑮ナショナルスタンダードズ スタンダードズに基づいた小学校での日本語教育 ジュンコ・ハナイ・アゲナ(米国・アイナハイナ小学校 プログラムコーディネーター/日本語教師)	Japanese Language Teaching Around the World ⑮ National Standards Standards-Based Japanese-Language Education in Elementary School Junko Hanai Akena (Program Coordinator/Japanese Language Teacher, Aina Haina Elementary School)
国際交流基金主催 海外日本語教育シンポジウム 初等・中等教育レベルの日本語教師に対する研修 国際交流基金日本研究部企画開発課	International Symposium on Overseas Japanese-Language Education Training for Japanese-Language Teachers of Primary & Secondary Schools
中・上級 新聞・雑誌から見る現代日本 第7回 「調査捕鯨」 本コーナーは著作権の関係でホームページへの掲載ができません。	Intermediate and advanced Aspect of Japan Today in the Newspaper and Magazine Scientific Research Whaling (This article is prohibited to appear on the web sight by copyright holder.)
初・中級 写真で見る日本人の生活 正月	Beginning and intermediate Japanese Life As Seen in Photographs New Year's Day
日本語・日本語教育を研究する 第15回 アクション・リサーチ 横溝紳一郎(広島大学教育学部助教授)	Research on the Japanese Language & the Japanese Language Education Action Research Shin'ichiro Yokomizo(Associate Professor, Faculty of Education, Hiroshima University)
初・中級 授業のヒント 俳句を作りましょう	Beginning and intermediate Ideas for Japanese-Language Classrooms Let's Compose a Haiku
本ばこ (新刊教材・図書紹介)	Book Shelf : Introduction of New Titles
海外日本語教育Q&A	Overseas Japanese-Language Education Q&A
ニュース・編集部から	Miscellaneous News・From the Editors

マークは、読者が教えている生徒のレベルを示します。

mark indicates the level of students whom readers are teaching

読者から

私は、マンガレーYMCAが作ったHitoセンターという機関で、今年の4月から日本語教師として働いています。1997年の設立当初は、アシスタントとしてかかわっておりました。

『海外の日本語教育の現状』や『日本語教育通信』を送っていただき、ありがとうございました。興味深く読ませていただきました。また、日本からの郵便物は、精神的にも励まされますので、大変感激いたしました。

「人」センターは、設立からまだ3年しか過ぎておりませんので、不十分なところも多く、手さぐりで日本語教育をすすめている所です。お手数ですが、これからも引き続き上記のような冊子があれば、お送り下さいます

よう、よろしく願い申し上げます。

マンガレー Hito Center, YMCA

マンガレー 吉川 由里子

●お手紙は編集部で要約・編集して掲載しました。

表紙エッセイプロフィール

ピーター・バラカン (Peter Barakan)

英国ロンドン生まれ。'70年代半ばの来日後、音楽出版社勤務を経て、'80年代に入り、放送での仕事や執筆活動を始める。'84年の「ポップーズMTV」では既存の音楽番組とは違う切り口で、耳目を集める。音楽への造詣の深さはジャンルを問わず、著作物も多い。活躍の場は音楽番組にとどまらず、'88年から「CBSドキュメント」の司会をつとめている。

スタンダードズに基づいた 小学校での日本語教育

米国ハワイ州ホノルル市 アイナハイナ小学校 プログラムコーディネーター / 日本語教師

ジュンコ ハナイ アゲナ

このコーナーでは、特色ある日本語教育を実践している機関の教師の方々に、現場のコースデザインやコース運営の状況について、紹介していただきます。

1 はじめに

ハワイの学校にとって日本語プログラムというのは珍しくない。ハワイ大学には大きな日本語専攻部門があるし、ほとんどの高校で日本語を選択科目として取ることができる。日本語を選択科目としている中学校も少なくない。小学校レベルでも日本語を特定の学年もしくは全校生徒の教育カリキュラムに組み込んでいるところがいくつもある。しかしながら、小学校では州からの外国語教育に対する資金保証がなく、日本語教師はパートタイムになってしまうのが現状である。

ホノルル市郊外にあるアイナハイナ小学校では、ハワイ州でスタンダードズ (Standards: 学習すべき内容についての基準) の見直しが始まった1996年に、ハワイ州の外国語教育担当者と小学校教員免許を持つ日本語教師1人、そして日本語教育に対して強い興味を示したアイナハイナ小学校の当時の校長と教師らによって、スタンダードズに基づいた「NIHONGO」プログラムが設立され

た。ハワイ州の新しいスタンダードズが出来上がった1999年には、国際交流基金の海外日本語講座専任講師給与助成プログラムの援助と連邦政府 Title VII: Foreign Language Assistance Program からの補助金を受けて、「NIHONGO」プログラムを拡大することができた。

2 アイナハイナ小学校「NIHONGO」プログラム

アイナハイナ小学校では、幼稚園 (5歳) から6年生 (12歳) までの全校生徒が週2回日本語を学習している。授業時間数は学年によって違うが、週1時間から1時間20分くらいで、授業は生徒たちの教室ではなく日本語教室で行われる。小学校ではほとんどの科目の授業が自分たちの教室で行われるが、日本語教室を設けることは1996年のこのプログラムの設立に当たってとても大切なことであった。日本語学習だけの教室があれば日本語を学ぶ環境を作るのに最適だし、生徒にとっても教室に入ったら日本語を聞いて話すという雰囲気があり集中力を維持できるからである。日本語教師は2人とともにハワイ

ハワイ州外国語コンテンツスタンダードズとナショナルスタンダードズとの比較

ハワイ州外国語コンテンツスタンダードズ	ナショナル	
1: コミュニケーション、対人 (Interpersonal)	生徒が会話や読み書きを通して適切な情報を相手から会得し、自分の意見を述べたりすることができるという内容	同様
2: コミュニケーション、解釈 (Interpretive)	生徒が読み取る力と聞き取る力を持っているという内容	同様
3: コミュニケーション、発表、提示 (Presentational)	生徒が聞き手や読み手のために様々なピックに於いて発表、提示することができるという内容	同様
4: 文化 (Cultures)	生徒が文化を学習する上での3つのP、風習/習慣 (Practices)、物の見方 (Perspectives)、物 (Products) の関連を学びながら他文化を理解するという内容	この項目が2つに分かれている
5: 比較 (Comparisons)	生徒が自分の母国語と外国語の言語の比較を通して言語の理解を深めるという内容	言語と文化の比較/理解が記述され2つの項目に分かれている
6: コネクションとコミュニティ (Connections & Communities)	生徒が外国語を学んでいる際に他の教科内容にも関連づける (Connections)、教室外での様々な環境に於いて学んでいる外国語を使うことができる (Communities) という内容	もっと細かく記述され、コネクションとコミュニティそれぞれ2つずつの項目に分かれている

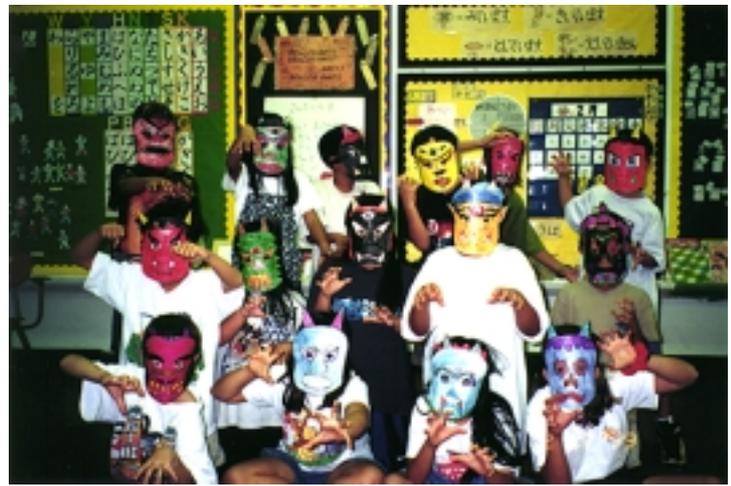
州での教員免許を所持し、1人は日本語をハワイの様々な学校で長年教えてきた経験があり、もう1人はオレゴン州の日本語イマージョン学校で教えた経験を持っている。前者は低学年、後者は高学年を担当しているが、2人の経験を生かしてチームティーチングをするように毎日スタンダーズの授業について話し合っている。更に去年改訂されたハワイ州外国語コンテンツスタンダーズ (World Languages Content Standards) についてアイナハイナ小学校全教師に説明したり、日本語の授業で学んだことを各クラスでどのように強化できるかなどを話し合う「NIHONGO」委員会会議を開いたりしている。

3 外国語コンテンツスタンダーズ

外国語スタンダーズは5つのC (Communication, Cultures, Comparisons, Connections,そしてCommunities) から成り立っている。その5つのCを中心にコンテンツスタンダーズが何項目がある。ハワイ州の外国語コンテンツスタンダーズ(1999年)は6項目あり、11項目あるナショナルスタンダーズ(1996年)と比べて項目数こそ少ないものの内容はさほど変わりがない。(前ページの表参照)

4 スタンダーズに基づいた授業

スタンダーズを理解した上でそれに沿ったレッスンをすると目的のはっきりした授業となり、アセスメントや次の目標を立てるためにもスタンダーズは必要である。その際アイナハイナ小学校の日本語プログラムでよく使われる方法は、5つのCの一つであるコネクション(ハワイ州外国語コンテンツスタンダーズの項目6)にもあるが、日本語を他の教科の内容と関連づけて教える方法である。このIntegrated Lessonsと呼ばれる方法では、授業内容が濃くなり生徒にとってもより意味のある授業となる。例えば、低学年に動物の名前を日本語で教えるとき、自分たちのクラスの理科の授業で動物の勉強をしている期間に教えれば生徒たちが実際に学んでいることと繋がりができるし、生徒たちもより興味を持って取り組む。もっと具体的な例を挙げれば、「山に住む動物」「海に住む動物」「陸に住む動物」等に分け生育地(habitat)の勉強を通して、あるいは「アジア大陸の動物」「アフリカ大陸の動物」等にわけ社会を通して日本語を教えることもできる。つまりIntegrated Lessonsは理科や社会など一度に数教科のスタンダーズを満たすこともできるのである。ここでは、図工を通してハワイ州外国語コンテンツスタンダーズに基づいた日本語の授業例を挙げよう。



鬼の面を作ってポーズ。この鬼の面を使って様々な会話ゲームをした

節分(ハワイ州外国語コンテンツスタンダーズ 項目1、4、6)

生徒は節分の日のために鬼の面を作り豆撒きをする。まず教師が鬼の出てくる昔話を紙芝居を使い日本語で紹介し、鬼や節分の日について話し合う。次に鬼の面を作るが、初めに線と形について学び、いろいろな線(真直ぐ、ジグザグ、カーブ等)を使って様々な形を描く。その様々な形を生かして鬼の目や眉毛、髪の毛や角を描き、色を塗り、鬼の面を完成させる。面ができたらそれを使って会話やゲームをする。鬼の面を前に並べ、質疑応答を通して他の生徒たちにどれが自分の面か当ててもらおうのである。

- 例： 生徒Aの描いた鬼の面はどれか当てる場合
- 生徒B 「(A君の鬼の)口は大きいですか。」
- 生徒A 「はい。」
- 生徒C 「目は青いですか。」
- 生徒A 「いいえ、黒いです。」
- 生徒D 「歯は三角ですか。」
- 生徒A 「はい。」
- 生徒E 「(一つの鬼の面を指差して)これですか。」
- 生徒A 「当たり！」

自分から進んでいくつもの文章が言えるレベルであれば、1人で自分の鬼の面について説明する。他の生徒はその説明を聞き、どの鬼がその生徒のものか当てる。当たったらその生徒は自分の鬼の気に入ったところを「～が好き」の文章を使って説明する。(例：「私の鬼の黒い目と大きい角が好き。」)自分の完成作品について話すのは、図工の授業の一貫でもある。またこのゲームは注意して聞いていないとできないので生徒の集中力も養成する。さらに、このゲームを応用してアセスメントとしても利用できる。

最後に豆撒きをする。文化を学習する上での3つのP、

豆撒き(Practices)、豆撒きの目的と理由(Perspectives)そして豆撒きの豆(Products)について話し合い、実際に豆撒きをした後、数の復習をしながら豆を配り食べる。

この一連のレッスンはコンテンツスタンダードズの他の項目(例えば生徒が昔話を日本語で聞き取るという点から項目2)にも繋げることができるが、生徒の集中力と興味を維持させるため、一度にあまりにも多くのスタンダードズをねらわないようにしている。多ければ多いほどまとまりがなくなるし、焦点を見失ってアセスメント



日本語クラスで高学年がクラス毎にゲームや工作などのテーマを決め、「アイナハイナ小学校日本文化の日」に低学年に披露した。これは太鼓(手前)と柔道(後方)グループ



名前のスタンドグラス。名前と8本の線を工夫してつなげてデザインを作った



「アイナハイナ小学校日本文化の日」のおはじきグループ。低学年に教えているところ。このクラスはゲームをテーマにし、他に将棋や羽根つきなども教えた

もしにくいからである。

5 今後の課題

今後の課題は、スタンダードズに基づいたアセスメントである。アイナハイナ小学校の日本語教師2人は、プログレス・インディケーター(Progress Indicator)を開発すべく外国語コンテンツスタンダードズ研究委員会に属している。例えばハワイ州外国語コンテンツスタンダードズの項目1の場合、生徒がどのような会話(そして読み書き)がどれくらいできたときに「項目1を達成した」といえるのかというインディケーターを制作するのである。それによって生徒がスタンダードズを満たしていないとなれば、授業、カリキュラム、アセスメント等を見直さなければいけないし、満たしているとなればそれを土台として次のステップに進まなければならない。

新しいハワイ州スタンダードズが出来上がって、外国語教育も大切な教育の一貫とみなされるようになってきたが、小学校ではまだまだこれからである。多文化多国籍の世界で将来を担う子どもたちのために、これからもさらにプログラムを強化して外国語教育を広めていきたいと考えている。

スタンダードズについての参考文献：

- (1) Standards for Foreign Language Learning : Preparing for the 21st Century, National Standards in Foreign Language Education Project, Funded by the U.S. Department of Education and the National Endowment for the Humanities, Additional Support from D.C. Heath and Company and EMC Publishing Company, Allen Press, Inc. Lawrence, KS, Copyright 1996
- (2) Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century, National Standards in Foreign Language Education Project, Initial Project Funded by the U.S. Department of Education and the National Endowment for the Humanities, Additional Support from D.C. Heath and Company and EMC Publishing Company, Allen Press, Inc. Lawrence, KS, Copyright 1999

『国際交流基金主催 海外日本語教育シンポジウム』

こく さい こう りゅう き きん しゅ さい
かい がい にほんごきょういく

国際交流基金日本研究部企画開発課 こくさいこうりゅうききんにほんけんきゅうぶきかくかいはつか

● はじめに ●

国際交流基金は海外の日本語教育を支援するため、1990年度より「海外日本語センター」を開設しています。現在は、インドネシア、タイ、マレーシア、オーストラリア、米国、ブラジル、英国の世界7か国に設置されており、「日本語教育研修会・セミナーの開催」、「日本語教材・教授法開発プロジェクトへの支援」、「日本語教育カリキュラム・教材・教授法等に関するコンサルティング」、「日本語講座の運営」、「日本語教育・教材専門図書館の運営」、「日本語教育用教材・リソースの開発および寄贈」、「日本語教育に関する情報提供・情報交流」等、さまざまな形で各国の日本語教育を支援しています。

このたび、上記7か国の海外日本語センターの主任講師が日本に集まり、1週間にわたり各種の会議やシンポジウムに出席しました。期間中は海外の日本語教育を支援している主な機関の代表者や外務省・文化庁の担当官を交えての「海外日本語教育支援団体懇談会」のほか、国際交流基金の日本語国際センター・関西国際センターに勤務しているスタッフや海外事務所に勤務している日本語教育アドバイザーとの会議がありましたが、ここでは、9月19日に東京（国際交流基金国際会議場）で開催された海外日本語教育シンポジウム「初等・中等教育レベルの日本語教師に対する研修 - 海外日本語センターでの事例報告を中心に -」について報告します。

1 海外日本語教育シンポジウムの開催

かいがい にほんごきょういく かいさい

海外日本語センターの業務内容はそれぞれの国の日本語教育事情を反映してさまざまですが、共通している業務のひとつに、主として初等・中等教育レベルの日本語教師に対する研修事業があります。このシンポジウム開催の目的は、とくに初等・中等教育レベルの日本語教師に対する研修の内容と方法について、海外日本語センターが過去10年間に渡って取り組み、蓄積してきたものを国内の日本語教育界に還元するとともに、いっしょに考



えていく機会とすることでした。シンポジウムのコーディネーターとパネリストは別表のとおりです。

2 日本語教師の養成

にほんごきょうし ようせい

はじめに各日本語センターの主任講師から、それぞれの国の教育制度と大学・教育大学等における日本語教師養成システムの紹介がありました。

どの国でも小学校、中学校、高校の日本語教師となるためには、とくに公立学校の場合、教員免許が必要となります。現在、海外日本語センターが設置されている国の多くでは自国の大学に日本語教職課程が設置されており、そこを卒業すれば日本語の教員免許が授与されます。日本語教職課程を有する大学の数は1校だけの国もありますが、米国には約50校あるとのこと。また、オーストラリアには日本語母語話者を対象としたコースや、課程の一部にイマージョン・プログラムを取り入れた日本語教職課程もあります。

教職課程の一環として教育実習を取り入れる大学も増えており、より実践的なカリキュラムが組まれるようになってきています。しかし、中には、日本語と言語構造

が著しく異なるヨーロッパ言語を例として取り上げている場合もあり、日本語教師養成の一環としては適当でないという問題点も指摘されました。この問題を解決するためには、各大学で本語学科と教育学科がより一層連携することが必要でしょう。

また、他科目の現職教員を再養成することで、日本語教師を確保する場合があります。たとえばタイでは、同国の教育省と国際交流基金が協力して10か月間の集中的な教育を施すことによって現職教員を日本語教師に再養成しています。日本語教師に再養成された教員は国際交流基金日本語国際センター（埼玉県浦和市の）滞日研修（7週間）に参加するほか、同基金バンコック日本語センターの研修にも参加し、更なる日本語能力の向上に努めています。またマレーシアでは、「東方政策」(Look East Policy)の一環として、小学校や中学校の現職教員を日本の大学に4年間留学させることによって、中等教員レベルの日本語教師養成を図っています。

3 現職日本語教師に対する研修

日本語教師養成システムの紹介に続いて、各センター主任講師からは各国における現職日本語教師に対する研修の種類や内容についての報告がありました。

日本語教師の新規養成は大学や教育大学が主体となつて実施されているのに対し、現職日本語教師に対する研修は教育行政機関や教師自身が主体となって実施されるケースが多く、国際交流基金の海外日本語センターもとくにこの点で各国の日本語教育に協力しています。

海外日本語センターの日本語教師研修事業は、それぞれの日本語センターに教師を集めて研修会を開催する場合と、各地の教育行政機関や日本語教師会が主催する日本語教育セミナーに日本語センターの講師が出張したり、開催のための経費を助成したりする場合があります。前者の場合はさらに平日の夕方や特定の曜日に毎週研修会を開催する場合と、夏季休暇等の期間に1週間程度の短期集中研修を行う場合があります。研修内容はそれぞれの国の日本語教育シラバスやカリキュラムを踏まえ、さらに参加教師の要望を考慮して組み立てられています。近年は現場に戻ってからすぐに使える教室活動に焦点を合わせた研修が増えてきています。これは、各国の日本

【コーディネーター】

国際交流基金日本語国際センター

こくさいこうりゅうききん にほんごこくさい

三原龍志 専任講師主任

みはらりゅうし せんにんこうし しゅにん

【パネリスト】

国際交流基金ジャカルタ日本語センター

小林佳代子 主任講師

小林佳代子 主任講師

前田綱紀 主任講師

同 バンコック日本語センター

雄谷 進 主任講師

同 クアラルンプール日本語センター

キャシー・ジョナック 主任講師

同 シドニー日本語センター

片岡裕子 主任講師

同 ロス・アンジェルズ日本語センター

吉川・一甲真由美エジナ 専任講師

同 サン・パウロ日本語センター

木谷直之 主任講師

同 ロンドン日本語センター

語教育がコミュニケーション的な方法を取り入れつつあることを反映していると言えるでしょう。

各地で開催されるセミナーに協力する場合は、当該地域の日本語教師会と共催で開催するケースが増えてきました。日本語教師会は情報交流ネットワークとしてのみならず、教師相互の自主的な研修の場としても機能するケースが多く、教師会の活動に対する協力はどこの国のセンターにとっても重要な業務になってきています。

遠隔地の日本語教師を対象に通信教育で研修を行っている日本語センターもあります。この分野では最新の情報通信技術を日本語教師研修事業にどのように利用していくかが課題となっています。また、近年は初等教育レベルや前期中等教育レベルですでに日本語を学んだ生徒が進学後も継続して日本語を学ぶようになってきているため、ひとつのクラスに日本語既習者と日本語未習者が机を並べるといった状況も生じており、日本語教師には学習者の多様性に対する対応も求められています。このマルチ・レベル・クラスへの対応をテーマにした日本語教師研修も今後の課題となっています。

4 質疑応答

各センター主任講師からの報告が終わった段階で、出席者との質疑応答がありました。今回のシンポジウムには日本語教育関係者を中心に定員一杯の100名ほどの参加者があり、海外における日本語教師の養成・研修に対する関心の高さをうかがわれました。出席者からは、海外の日本語教師養成・研修に日本人の専門家はどのように貢献できるのか、またそのために必要な知識・技能はどのようなものかとの質問が出され、各パネリストからは日本語および日本語教育に関する専門的な知識・技能もさることながら、その国の教育制度や教師・学習者の

状況を十分に認識していることが必要との回答がありました。

このシンポジウムは休憩をはさんで3時間という長いものでしたが、活発な議論が続き、時間の長さを感じさせないものでした。最後にコーディネーターの三原龍志主任から、このようなシンポジウムを今後も開催したい旨の挨拶があり、会を閉じました。

なお、9月22日には大阪におきましても、各センターの主任講師がパネリストとなり、国際交流基金関西国際センターの浜田盛男日本語教育専門員主任が司会を務めて、シンポジウム「海外の日本語教育事情と国際交流基

金海外日本語センター」が開催され、50名ほどの参加者がありました。ここでも、日本語教師研修事業を中心とする海外日本語センターの業務内容が紹介されました。

海外日本語センターは今後も主として初等・中等教育レベルの日本語教師を対象とした研修事業を続けていく予定にしています。また、個々の教師に対するコンサルティングにしているほか、日本語教師を対象としたニュースレターの発行、日本語教材の貸出等の業務を行っています。海外日本語センター事業の詳細についてお知りになりたい場合は、お住まいの国の各日本語センターまでお問い合わせください。

海外日本語センター主催・協力の日本語教師研修会・セミナーの例（1999年度）

ジャカルタ日本語センター	
日本語教師研修講座(通算3回KURSUS教師)	若手大学教師1日セミナー
日本語教師研修講座(若手大学日本語教師)	全ジャワ日本語学校教師研修会(継続者研修)
専門(観光)高校日本語教師懇談会	バンドン地区大学教師1日セミナー
北スラウェシ州普通高校日本語教師研修会	バリ地区高校日本語教師研修
全スマタラ高校日本語教師研修会	日本語教師日本語講座
一般日本語学校教師懇談会(フォローアップ研修)	マラン普通高校日本語教師研修会

バンコック日本語センター	
日本語教師日本語研修	日本語教師通信教育講座(年間)
邦人日本語教師教授法研修会	中等学校新規日本語教師養成講座(年間)
日本語教師金曜研修会(年間)	タイ北部日本語教師会(チェンマイ県)セミナー
日本語教師土曜研修会(年間)	イサーン日本語教師会(コンケン県)セミナー

クアラルンプール日本語センター	
日本語教育セミナー(3回)	コタバル日本語教師研修会
RS試験問題作成ワークショップ	ペナン日本語教師研修会
日本語教育ワークショップ	イポー日本語教師研修会
地方セミナー(サバ、ブルネイ)	マレーシア政府教育省派遣日本語教師研修会
日本語国際センター日本語教師研修修了生勉強報告会	

シドニー日本語センター	
国際文化フォーラム・ワークショップ	南オーストラリア州私立学校協会日本語教師研修会
西オーストラリア州日本語教師研修会	西オーストラリア州日本語教育セミナー
タスマニア州日本語教師研修会	首都特別地域中等課程日本語教師研修会
クィーンズランド州日本語教師研修会	日本語教材ワークショップ
ヴィクトリア州日本語教師研修会	日本語教育集中セミナー
ニューサウスウェールズ州日本語教師研修会	クィーンズランド州私立学校協会日本語教師研修会
日本語教師放課後日本語コース	

ロス・アンジェルス日本語センター	
フロリダ州ナショナル・スタンダード・ワークショップ	第7回夏期日本語教授法ワークショップ
オレゴン州ナショナル・スタンダード・ワークショップ	カナダ・アルバータ州日本語教師会ワークショップ
カリフォルニア州日本語教師会ナショナル・スタンダード・ワークショップ	在シカゴ日本総領事館日本語ワークショップ
北東部中等教育日本語教師会ナショナル・スタンダード・ワークショップ	ビジネス日本語セミナー
カリフォルニア州パークレーナショナル・スタンダード・ワークショップ	

サン・パウロ日本語センター	
日本語学・日本語教育学研究会	パラナ州外国語教師研修会
サンパウロ州外国語センター研修会	日本語教育巡回セミナー
サンパウロ州・パラナ州外国語センター合同研修会	ペルー日系人協会主催日本語教育セミナー
サンパウロ州・パラナ州外国語センター巡回指導	日本理解のための講演会(2回)

ロンドン日本語センター	
北部イングランド中等教育日本語教師セミナー	CILT共催日本語教育セミナー
ステップング・アウト・セミナー(2回)	大学訪問指導(4回)
ノッティンガム大学PGCE課程学生教材制作指導セミナー	邦人日本語教師向け日本語教授法等研修会
ノッティンガム大学PGCE課程教育実習メンターセミナー	ロンドン日本人学校補習校日本語教授法研修会
非母語話者日本語教師のための日本語研修会	第2回中等教育外国語教育主任集中日本語セミナー
WJLC "Japanese for Everyday Communication" セミナー	A/AS level 日本語試験に関するセミナー

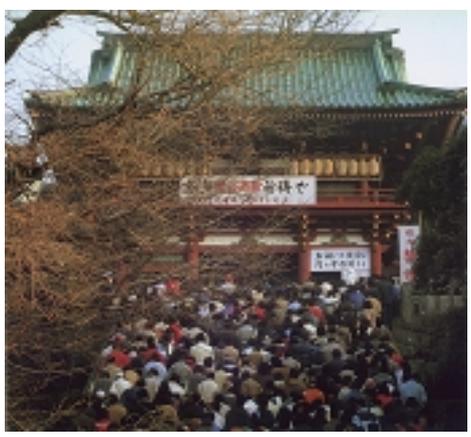


写真で見る 日本人の生活

「正月」 しょう がつ

このコーナーでは、国際交流基金日本語国際センターが発行している、日本語教育用「写真パネルバンク」を使って、初中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案していきます。また、文型、単語、漢字は、初級の学習者でも読めるようにやさしいものを使っています。今回は「正月」に関する写真パネルを集めてみました。「写真パネルバンク」CD-ROMを使うと、簡単に検索ができます。

最近では、お正月を行楽地や海外で過ごす人も増えてきましたが、自宅やふるさとで家族とお正月を過ごす人がほとんどです。ここでは伝統的な正月の風物について紹介します。



初詣 はつ もうで

大晦日（12月31日）の夜から元旦（1月1日の朝）そして3日にかけて、多くの人々が神社やお寺にお参りに行きます。



門松・しめ飾り かど まつ かざ

玄関や部屋などには、しめ飾りを飾ります。玄関に門松を立てている家はそれほど多くありません。どちらも年神という神様を呼ぶためと考えられています。

松の木以外の木が使われることもあります。3本立っているのは竹です。 →



鏡もち かがみ

部屋には鏡もち（鏡のように丸く作ったもち）を飾ります。もちは稲作中心の日本では、神様の象徴として使われていました。1月11日まで飾り、そのあとおしるこやお雑煮のなかに入れて食べます。

三方という台の上に、しだの葉をしいて、丸いもちを二つ乗せます。 →





おせち料理

正月に食べる料理をおせち料理といいま
す。野菜や魚などを甘く煮たものが中心です。



年賀状

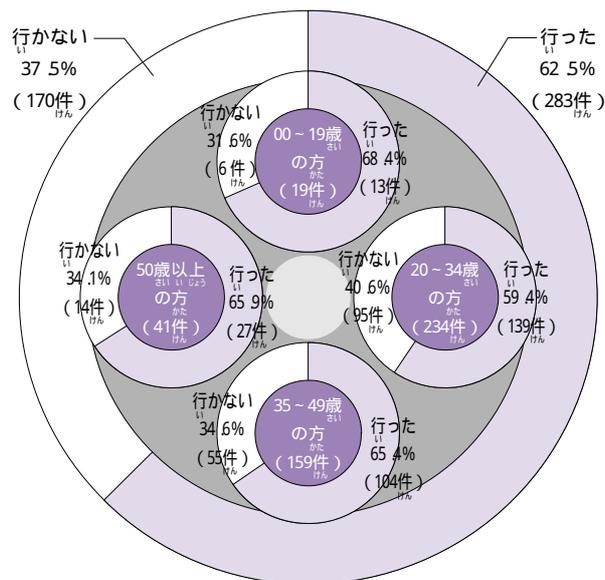
年始のあいさつとして、知人や親
せきに出すはがきです。年末に出し、
元旦にいっせいに配達されます。

おとそは元旦に、一年の平安を祈って飲むお酒です。

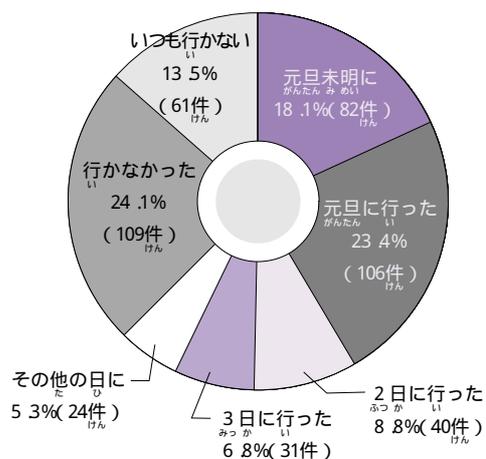


もちを入れた汁を雑煮といいます。

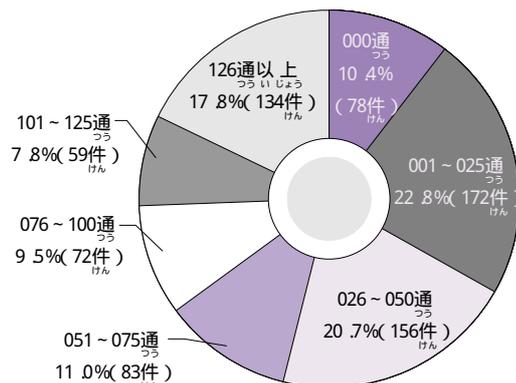
初詣に行きましたか？



初詣は何日に行きましたか？



年賀状を何通出しましたか？



出典：インターネット世論調査『正月に関する調査結果』
(2000.12.1)
<http://www.hir-net.com/poll/data/newyear1.htm>

アクション・リサーチ — 日本語教師の自己成長のために —

広島大学教育学部助教授 横溝紳一郎

このコーナーでは、これから研究を目指す海外の日本語の先生方のために、日本語学・日本語教育の研究について情報をおとどけています。今回のテーマはアクション・リサーチ（日本語教師の自己成長のために）です。

(1) アクション・リサーチとは？

アクション・リサーチ (action research、以下AR) は、ひと言で言うと、「現職教師が自己成長を目指して行う自分サイズの調査研究」です。つまり「教師が自己成長のために自ら行動 (action) を計画して実施し、その行動の結果を観察して、その結果に基づいて内省 (reflection) するリサーチ」ということになります。自分の教え方の向上を目指して内省プロセスに従事するのは、自己成長を望む教師なら誰でも通常行っていることですが、ARにはそれに枠組みを与え、それをよりシステマティックに変化させる機能があります。

(2) なぜ実施するのか？

ARを実施するメリットとしては、(1)教師自身の成長、(2)教師一人一人が、教え方についての既成の理論を受け入れるだけの「消費者」ではなく、「教え方に関する情報の発信基地」になれる、(3)教師同士のネットワーク作りに貢献する、(4)周りの人々そして社会の、教師の仕事に対する理解が深まる、(5)教授・学習環境が向上する、(6)教師と学習者の間の信頼感・親密性が増すこと、等が挙げられます。

(3) どのように実施するのか？

ARは自分の教授活動の中での問題点や関心事 (concerns) をトピックとして、そのトピックの何が気になっているのかをできるだけ具体的に明らかにするところから始まります。ARでリサーチするトピックは、教師が教えること・学習者が学ぶことに関するものであれば、何でも構いません。例えば、「指名の仕方」「発音指導の仕方」「クラスルーム運営」「成績不良の学生への対処」「ほめ方」「誤りの直し方」「教室活動の工夫」「質問の内容」「学習者の動機づけ」「自律学習の援助法」など、教師が関心・興味を持ったものなら何でも、ARでリサーチするトピックになります。

トピックがはっきりしたら、そのトピックについてク

ラスの中で実際に何が起きているのかを調べると共に、そのトピックに関してどのような主張が既になされているのかについての情報をできるだけ集めます。このようなクラス内の調査と先行研究の調査によって得た知識を元に、問題の改善策や関心事の実施方法を考え、それを実行に移す計画を細かく立てて、実際に実施します。実施した行動の成果を観察・分析し、行動の成果が望ましいものであったかどうかを評価し、望ましいものでなかった場合は、その原因を考察します。この結果、更なる改善策を考えてそれにトライすることも可能です。リサーチが一段落ついたら、そのプロセスと結果を他の教師と共有します。

(4) 特徴

・状況密着型である（小規模であることが多い）

ARの対象は基本的に、教師が実際に教えている教室そして学習者です。必然的に、教師が教える状況に密着した小規模のリサーチになる傾向があります。

・（授業を行っている）本人が行うものである

ARを実際に行うのは、実際に授業を担当している教師本人です。他の人の助けを得たとしても、その主体はあくまで教師自身でなければなりません。いわゆる研究者がAR実践者を援助する際は、一方的に指導したり講評したりすることは避けなければなりません。

・協働的 (collaborative) 実施が望ましい

一人でARを進めることも不可能ではありませんが、他の教師と協力して励まし合いながら進める方が実施が容易です。協働でリサーチを進める中で、他の教師との横のつながりを広げることにも可能になります。

・起こした変化によって他の人が影響を受けるものである

ARは、教える状況の向上を目指して教師が行動するものです。その行動によって影響を受けるのは行動する教師本人だけにとどまらず、学習者や他の教師や教育機関等に直接的/間接的に影響を与えることになります。そういった意味でARは、ポリティカル (politi-

cal)なプロセスです。

・ **自分の教室を超えた一般化を直接的に目指すものではない**

ARは、教師が自分自身の教える状況の向上を目指し状況密着型で行うものであって、その結果の一般化は慎まなければなりません。

・ **柔軟性があり取り組みやすく現場の教師向きである**

ARは、あくまで教師の実践の向上を目指して行われるものであって、教師の通常の仕事スケジュールを崩して無理に実施してかえって実践の質が低下してしまつては本末転倒です。ARは、現場で授業を担当している教師が取り組みやすい柔軟さを持っています。また、ある仮説を立てたとしても、それにこだわらず、必要に応じて仮説を変化させていくという点でも柔軟です。実施方法についても、変更の必要性や変更したいという気持ちが出てきた場合は躊躇なくそれを変更し、新たな方法論を明示し直し、その後はそれに沿って研究が進んでいきます。

(5)アクション・リサーチに関する提言

上述のARの実施によりもたらされるメリットを出来るだけ実現するためには、以下のような心構えが必要です。

・ **ARの始まりはトップダウンではなく、ボトムアップであるべきである**

ARの実施の決定は、本人が「自分自身の現状を変えること」を望んで始めるというボトムアップ形式でなければなりません。教育機関等が教師に無理に実施させるトップダウン形式であってはなりません。また、リサーチのトピックも実施者本人から出てくるものでなければなりません。

・ **自分サイズのリサーチでなければならない**

ARを実施できる環境は、実施者によって大きく異なります。規模・長さ・データの豊富さ・データ分析の綿密さ等の面で「自分にとって大き過ぎる負担にならない」ARの計画を立てて、それを実行に移すことが肝要で、それにより、それぞれの形での自己成長が可能になります。

・ **深い内省が必要不可欠である**

内省の部分をあまり重要視せず、行動に移すことそしてその結果を知ることのみに重点を置いたARが、現状では残念ながら少なくありません。この内省の不足・欠落は、ARの後退であり、教師としての成長への貢献度が著しく減少してしまいます。

・ **その過程と結果の公開にあたっては、特別なスタンスが要求される**

ARの公開者には、客観的な態度による陳述ではなくて、実施課程で自分が何を行い、考え、思い、感じ、

どのような形で成長したのかを、自分の言葉で正直に分かりやすく「一人称で事実に忠実に」伝えていくことが、要求されます。そして、報告を聴いたり読んだりする側には、そのトピックについての自分の体験やアイデア等を公開者に伝え、積極的にインターアクションを創り上げ、公開者の自己成長を共有・支援する姿勢が必要とされます。

・ **実証主義的な実験研究と棲み分け的な共存を図るべきである**

様々な研究者によって広く行われてきた実証主義 (positivist) 的な授業の実験研究は、ある理論に基づき仮説 (hypothesis) を設定し、変数 (variables) をコントロールした実験によってその仮説を検証し、どの教室にも応用可能な「1つの真理」を追及することが、その目的です。ARはこれとは異なる目的、すなわち「教室内外の問題および関心事についての、教師の理解の深まりと教育的実践の改善」、そしてその結果生じる「教師の自己成長」を目的として実施されるものです。目的が異なるのですから、その機能も方法論も必然的に、実証主義的な実験研究とは異なるものになります。このタイプの違う2つのリサーチは、お互いを否定し合うのではなく、それぞれの良さを活かす形で、棲み分け的な共存を目指すべきです。

(6)アクション・リサーチの可能性

これからの日本語教師に求められるのは、ある「どのように教えるか」のモデルを、情報や知識として知ることから出発して、そのやり方をどのような条件の場合にどのような原則や認識に基づいて採用すべきなのかを、自分の教室の現状の的確な把握に基づいて考えていける能力です。ますます多様化していく学習者に対応して効果的な授業を行うためには、教師自身が自分の形で成長していくことが必要不可欠です。ARはその実現へ向けての大きな力になります。また、実施したARの公開を通じて、教育現場の声を日本語教育の発展のために反映させていくことも可能です。ARはこのように、日本語教師の一人一人の自己成長に一つの枠組みを与え、日本語教育全体の発展に貢献する大きな可能性を秘めています。

基本的な参考文献

- 横溝紳一郎 (2000) 『日本語教師のためのアクション・リサーチ』 日本語教育学会編 凡人社
 Burns, A. (1999) Collaborative action research for English language teachers. New York: Cambridge University Press.
 Crookes, G. (1993) Action research for second language teachers: Going beyond teacher research. Applied Linguistics, 14(2), 130 - 144.



4音の語彙：かみなり、こうずい、すずしい、あめふり

④音の数を考えながら、組み合わせて5・7・5を作ってみます。

そのときに、音の数を合わせるために助詞「に、の、へ、よ、まで、から」などを使ったり、動詞や形容詞の形を変えたりするといいでしょう。音の数を合わせる場合、5・7・5のマスにひらがなで書き込むと数えやすくなります。

たとえば次のような俳句ができるでしょう。

洪水で 町の車も 川のワニ
 こうずい まち くるま かわ
 あついで かみなりがきて すずしいね
 こうずい まち くるま かわ
 上からも 下からも降る 午後の雨
 うえ した から ふる ごご あめ



ただし、次の句のように、1、2音多かたり少なかつたりしても、意味が分かればだいじょうぶです。

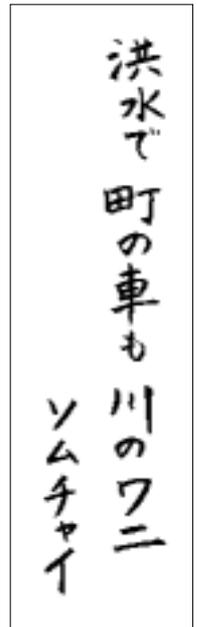
雨季になり 雨がふって(6) お米ができる(7)

⑤自分で気に入った俳句ができたなら、細長い紙(短冊)に書いてみましょう。もしあれば、細い筆で書くと本格的な雰囲気がでて楽しめます。みんなで短冊を壁に飾って、お互いの作品を楽しみましょう。

初めは難しく感じるかもしれませんが、通勤や通学を外を歩いているとき、友達と遊んでいて楽しいとき、おいしいものを食べたとき、きれいな景色を見たときなど

に、俳句を作ればいいのです。日本には四季があって、その季節らしい俳句を大切にしますが、四季のない国でも、雨の降る季節と雨の降らない季節の違いや年中行事の様子などで1年間の流れや変化が感じられます。それらを上手に取り入れて自分の気持ちを自由に俳句にしてみてください。

俳句作りは日本語のリズム感を身に付けるのに大変役に立ちます。また、そういった日本語の勉強に役立つだけではなく、俳句を作ることによって、自分の生活をもう一度見なおして新しい発見ができるかもしれません。



たんざく例

俳句でカルタをつくりましょう

生徒の作品がたくさん集まったら、カルタのように遊ぶこともできます。2枚のカードに同じ俳句を書きます。一組を机の上にはばばらに並べ、もう一組を一人が一句ずつ読んでいきます。他の人はその俳句のカードを探して取るゲームです。最後にたくさんのカードを取った人が勝ちです。

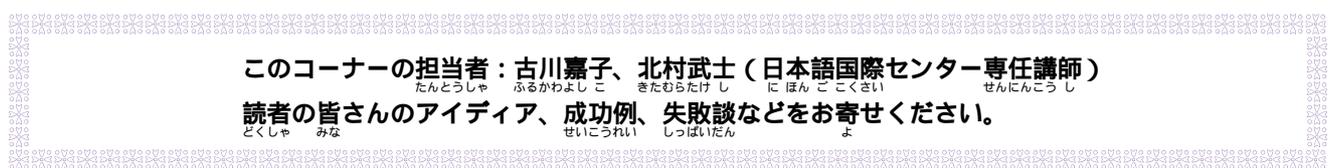
最近は海外でも、それぞれの国の言葉で、そのリズムを生かしながら、俳句が作られています。みなさんのクラスでも、ぜひ日本語で俳句を作ってみてください。そして、おもしろい作品ができれば、このコーナーまで送ってください。

参考文献

1. 池田純一著(1990)『授業に使える言葉遊び4』俳句・短歌づくり遊び 明治図書出版
2. 小林清之介(1993)『まんがで学習 やさしくてよくわかる 俳句の作り方』あかね書房
3. 日本航空広報部編(1988)『俳句の国の天使たち』あすか書房
4. 日航財団編(1991)『地球歳時記'90』学生社

このコーナーの担当者：古川嘉子、北村武士(日本語国際センター専任講師)

読者の皆さんのアイデア、成功例、失敗談などをお寄せください。

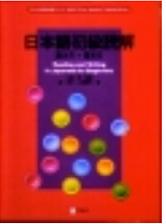




「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回に多くのご本を紹介できませんが、海外の先生にとって使いやすい教材「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っていると便利な図書・資料」などを取り上げます。

- データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

日常生活に必要なコミュニケーション力を養う 『日本語初級読解 読み方+書き方』



データ

- 1 三浦昭監修、因因子、上垣康と著、吉川裕子、福岡康子執筆・編集協力
2 発行：アルク (〒168 8611 東京都杉並区永福2 54 12 / TEL 03 3327 1101 FAX 03 3323 1001)
3 2000年6月1日
4 A 7574 0242 2
5 B 5 判
172ページ
6 1,890円

成人学習者のための読解教材

大人の学習者の場合、会話は得意ではないけれども読むのは大好きだとか、辞書や文法書を見ながら自分の興味のあるものをどんどん読みたいという人がいると思います。また、日本で生活している学習者の場合、お知らせ、標識、広告などから、はやく必要な情報がとれるようになりたいと思うのではないのでしょうか。この教材は、このような学習者のニーズを満たすために作られました。また、会

話には慣れてはいるけれども、読み書きはやったことがないという人でも使えるようになっています。

読みから書きへ

全体は、20の読解用の素材と、それについての課題から構成されています。20の読解素材は、名刺、伝言メモ、お知らせ、ポスター、手紙、新聞記事などで、実際のコミュニケーションを考えて選ばれています。「課題」は、Basics、STEP 1、STEP 2の3種類です。まず、Basicsで、漢字の読み方と基本的な文の構造の理解を確認します。次に、STEP 1で、内容の理解を確かめます。そして、最後にSTEP 2で、読解素材を参考にしながら、自分でお知らせや説明文や意見文などを書きます。書いたものは、掲示板にはったり、新聞や雑誌に投稿したり、実際のコミュニケーションに利用したりできるようにしています。

このように、読みから書きへという一連の作業を通して、学習者は読解力と表現力の両方を高めることができます。

学習者が自分で学べる工夫

初級(50時間終了程度)から使うことができるように、すべての読解素材には「漢字かなまじり版」と「ふりがなつき」の二つがあります。この教材は、初級の文法や会話の授業と並行して副教材として使うことができます。また、初級のまとめ用、中級への準備用としても利用することができます。巻末には「読むためのヒント」と「書くためのヒント」がついています。また、辞書として使える「使用語彙のリスト」(50音順、英訳付き)、主な初級文型とその例文、初級文法の簡単な説明もあります。これらを上手に活用すれば、学習者自身がレベルや興味に合わせて、ひとりでも読みすすめることができるでしょう。



P 31 「ポスター」(5課 読解素材)



P 52 「ご不在連絡票」(11課 読解素材)



P 84 「読者投書」(18課 読解素材)

授業のアイデアがいっぱい詰まった 『日本語の教え方 スーパーキット2 “新選素材”』



データ

■水谷信子監修、棚橋明美、木山三佳、松本隆、遠藤藍子、有吉英心子、古藤友子、田口雅子、岸本久美子執筆・編集協力 発行：アルク(〒168 8611 東京都杉並区永福2 54 12 / TEL. 03 3327 1101 FAX. 03 3323 2021) 3

2000年6月4日 7574 0483 2 絵カード(発展編)A5判216枚、絵シートA4判24枚、多目的絵カードA6判160枚、文型絵カードA4判93枚、絵素材パレットA4判24ページ、動詞フラッシュカード48カード、人物・動物カード カラー64カード、オリジナル「レリア」文型練習マップ(タウン編、ルーム編)B1変型1枚、A1変型1枚、ストーリーシートA1判カラー2枚、A2判カラー1枚、A4判2枚、A5判46枚、練習シート(短文編、漢字発展編)A4判各56枚、効果音CD1枚、整理用フォルダー付 15,540円

教材の特色

この教材は、既出版された「日本語の教え方 スーパーキット」につづく、「スーパーキット」シリーズの2巻目です。

この教材はいろいろな教材・教具が入った初級用の教材セットです。

学習者にとってわかりやすく、しかも意欲や積極性を引き出せるような授業にするために、現場の教師に役に立つ教材を提供すること、そして、教師の創意工夫を引き出すことをねらっています。

基本的な教材を入れた1巻目に比べて、学習者同士のコミュニケーションを活発にするように工夫した教材が数多く入っているのが、一つの特色です。

また、漢字や語彙については、「日本語の教え方 スーパーキット」の発展編として、更に内容を追加して膨らませて

います。

教材の内容

この教材には、文型や語彙などの学習用の絵カードや絵シート、漢字や文型の練習用シート、動詞フラッシュカード、会話練習用の絵シートなどが含まれています。そのほかに、自分で教材を作るときに使える様々な絵をテーマ別に集めた「絵素材パレット」、授業に使える効果音を集めた「効果音CD」、各種の「生の」素材に似せた「オリジナル『レリア』」など、いろいろな種類の教材が含まれています。そのうちのいくつかを詳しく紹介しましょう。

まず、絵カードや絵シート類としては、「文型絵カード」(図1)があります。これには、67種類の絵が入っており、文型に関連した表現を理解させるために使えます。また、「人物・動物絵カード」には、48枚の人物カードと16枚の動物カードが入っており、存在文、形容詞の接続、比較などを練習するために使えます。「文型練習マップ&ムービングカード」は、大きいシートと、そのシート上に置ける小さいカードの組み合わせです。「タウン編」と「ルーム編」があり、前者は、建物の位置関係や道順を教える練習に、後者は、物の位置関係や状態を表現する練習に使えます。「ストーリーシート」(図2)は、いろいろな場面や状況を想定した会話練習に使えます。そして、

多目的絵カード」には、食べ物・飲み物、乗り物、建物、天気、表情など、いろいろな種類の160枚のカードがあり、文型導入や練習の小道具として使えます。

また、先に紹介した「オリジナル『レリア』」(図3)には、ツアーパンフレット、求人広告、不動産広告、メニュー、時刻表、番組表などの、「一見「本物」のような各種の素材が入っています。そして、「効果音CD」には、電車、時計、電話、動物の声などのほかに、「朝のシーン」「生活」「街の1シーン」のように、何が起きているかを想像させるような音もあります。

この教材には、「使い方クイックガイド」という全体の解説書があるほかに、それぞれのカードやシート類に、使い方の例などを示した、より詳しい解説書もついています。これらは、授業をより効果的で変化に富んだものにしようと、日々苦心している教師に、さまざまな授業のアイデアを提供してくれることでしよう。



図2 「ストーリーシート」(旅行編)



図1 「文型絵カード」(51)

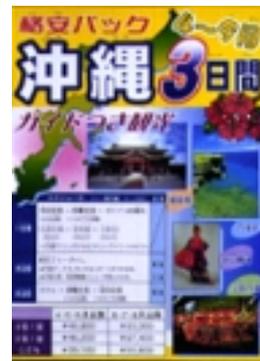


図3 「オリジナル『レリア』」: 『格安パック 沖縄3日間』

p.18~21は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

藤長かおる、向井園子、柴原智代、内藤満、小玉安恵、磯村一弘(執筆順)

このコーナーでは、海外で日本語を教えるときに、教師が直面すると思われる問題をとりあげ、質問に答える形で、読者のみなさんの参考になる情報を提供していきます。

Q 日本語の弁論大会にそなえて、スピーチの指導法を教えてください。また、授業にもスピーチを取り入れることができますか。その時の評価はどうすればよいでしょうか。

A スピーチというと、とてもむずかしいことのように考えていませんか。テーマややり方を工夫すれば、1分間スピーチや2分間スピーチなど、スピーチは初級でも無理なく授業に取り入れることができます。スピーチの指導では、「読む、聞く、書く」の他の技能とも関連づけて、スピーチをするまでの過程を大切にしてください。スピーチは「作って暗記して正しく言う」活動ではありません。評価では、「聞き手にわかりやすく、効果的に話すことができたかどうか」という点から、内容と発表方法の両方をみるようにしてください。

スピーチの効能

こうのう

話す活動には、相手との言葉のやりとりを主とする対話形式のものと、多数の人を前にして行う報告やスピーチのような独話形式のものがあります。口頭表現力をつけるためには、この両方の形式の練習を行う必要があります。

人前で、1人でまとまりのあることを話すスピーチのような活動は、母語でやっても緊張するものです。しながら、事前に話す内容を準備し話し方の練習ができるので、会話のような対話型のコミュニケーションが苦手な人でも大丈夫です。

授業では、学習者が自分の体験や意見をみんなに伝えられるという達成感を持つことが大切です。

スピーチの種類

しゅるい

スピーチというと、弁論大会（スピーチ・コンテスト）を連想しがちですが、次のような種類があります。

- ① 情報提供、方法説明のスピーチ
- ② 意見表明、提言のスピーチ
- ③ 社交目的のスピーチ：お祝い・歓迎・感謝のスピーチ

『日本語口頭発表と討論の技術』による

このうち授業に取り入れるのは、主に①と②です。

学習者のレベルに合わせたテーマの選び方

がくしゅうしゃ あ えら かつ

授業では、学習者の日本語のレベルや興味に合ったテーマを選んでください。弁論大会でもむずかしすぎるテーマは禁物です。

(1) 初級のテーマ

身近なテーマについて自分の経験を語るものが主に

ります。また、思い出の品などの実物や写真を見せながら、そのものについて話させる方法（「show and tell」）は、話し手にとっても話しやすく、聞き手にとってもわかりやすく楽しいものです。



(2) 初級後半から中級のテーマ

文型や語彙が増えてくるので、なにかについての説明や紹介のスピーチをすることができます。その際、自分の経験だけではなく、本や雑誌で調べたり（読む）人にインタビューしたり（聞く）した結果をスピーチという形で表現させることも大切です。

(3) 上級のテーマ

(2)の説明や紹介のスピーチに加えて、ある問題について自分の意見を主張し、聞き手を説得するスピーチを取り入れます。この場合、具体的な事例（スピーチの材料）が浮かびやすいテーマを選ぶのがよいと思います。成人学習者の場合、職業や専門分野と関連づけて、仕事でのプレゼンテーションや研究発表の仕方を練習させることも必要でしょう。

スピーチのテーマ（例）

初級	家族紹介、わたしの趣味、わたしの宝物、いちばん楽しい週末のできごと、わたしの夢の住まい（空想）
中級	私の得意料理紹介、世界一の観光地、ボランティアの仕事いろいろ、環境を守るひとつの方法
上級	外国人にもすみよい社会を作る、教育問題を解決する

スピーチの指導法

し どうほう

主に初中級レベルでスピーチを授業で取り入れる場合の指導法を紹介します。

(1) テーマ・内容の導入

「スピーチをつくる」ことは個人作業ですが、その前に、テーマや話したい内容について学習者同士で話し合います。自分が何を伝えたいか、聞き手は何について興味を持っているかなどが明らかになるからです。これは、スピーチに不慣れな学習者の場合、とくに重要です。

スピーチの導入方法 (1) キーワード

- ①教師がテーマ（例：わたしの宝物）を出す。
- ②学習者は、テーマについて自分の頭に浮かんだ言葉（キーワード）をメモする（母語でもよい）。
- ③ペアになって、メモを見せ合って、その言葉について説明する。お互いに質問する。

スピーチの導入方法 (2) インタビュー

*ペアになって、インタビューしてください。

（例：わたしの宝物）

- ①あなたの宝物はなんですか。
- ②それはどこで買いましたか。または、だれにもらいましたか。
- ③なぜ、宝物なのですか。

(2) スピーチの原稿やメモを書かせる

スピーチで伝えたい内容が明らかになってきたら、それを書いてまとめさせます。このとき、必要な語彙や文型を確認しますが、初級の場合は、モデル文を提示してもよいです（市販教材1にいろいろなモデル文あり）。中級の場合は、全体構成に注意させることが重要です（市販教材2に詳しい説明あり）。

(3) 教師が原稿の日本語を直す

いちばん重要なことは、内容がはっきり伝わる構成になっているかどうかです。語彙や文法の誤りや適切でない表現については、学習者のレベルに合わせて直します。

(4) 原稿やメモを見ながら、話す練習をさせる

つかえずに言えるようになるまで、声を出して練習させます。上手に言えないところがあれば、原稿を変えることも必要です。

また、話し方だけではなく、視線や身振りなどが効果的か、実物や写真を提示する場合は相手にとって見やすいかも重要なポイントです。そのためには、鏡の前で練習させてみることです。

(5) 実際にクラスでスピーチをさせる

スピーチは作文の朗読とはちがいます。聞き手の方をしっかりと見て話すことが大切です。ただし、無理に話す内容を暗記させる必要はありません。話す順序やキーワードを書いたメモを用意させるとよいです。

(6) 聞き手に質問させる

スピーチのあとで、聞き手である他の学習者に感想を言わせたり、内容について質問させたりします。質疑応答の時間があることによって、聞き手は積極的にスピーチを聞きこらしますし、話し手は自分のスピーチの内容をよく理解していることが必要です。なお、初級のうちは、母語で行ってもかまいません。

スピーチの評価

ひょうか

いいスピーチとは、聞き手にとってわかりやすく、伝えたいことが効果的に伝わるスピーチです。これをチェックするいちばんよい方法は、上述の(6)のように、聞き手の反応を確かめることです。

教師が評価する場合は、内容と発表方法の両面から、どの点がよくでき、どの点を改善すればよいかを学習者に伝えるとよいでしょう。

1. 内容

- テーマと内容の一致
- 導入部分の効果
- 説明、事実部分の明確さ
- 説得力（意見表面のスピーチ）
- まとめの適切さ

- 文法的正確さ

2. 発表方法

- 話す速度、声の大きさ、発音・アクセントの聞きやすさ
- 姿勢、視線、表情、身振り
- 視覚的提示手段：実物、写真、OHPなどの利用法

評価を学習者同士で行わせると、よいスピーチとはなにかを考えさせる機会になります。可能なら、スピーチをビデオで撮って自己評価させてみるのもよい方法です。

市販教材

しはんきょうざい

1. 鶴沢 梢 (1998) 『日本語 作文とスピーチのレッスン ~初級から中級へ~』 アルク
2. 東海大学留学生教育センター 口頭発表教材研究会 (1995) 『日本語口頭発表と討論の技術』 東海大学出版会

この機会に、ぜひ授業でスピーチにチャレンジしてみてください。

このコーナーの担当者：藤長かおる (Kaoru_Fujinaga@jpf.go.jp 日本語国際センター専任講師)

NEWS NEWS NEWS ニュース

2000年度日本語能力試験

昨年12月3日(日)に、2000年度の日
本語能力試験が、国際交流基金、(財)日本
国際教育協会の共催で実施されました。

この試験は、日本国内外において、原
則として日本語を母語としない人を対象
に、習得した日本語の能力を客観的に測
定し、その能力を認定することを目的と
しています。1984年から実施されており、
今回で17回目を迎えました。

今回は国外35の国・地域の82都市、日
本国内6地域で実施され、総計234,994
人(昨年度比約20%増)の応募者があり
ました。

各級の応募者数については別表のとおり
です。

級別	2000年度 応募者数(人)	1999年度 応募者数(人)	伸び率 前年度比(%)
国 外	1級	40,115	23.1
	2級	52,810	20.4
	3級	57,921	22.5
	4級	38,382	12.5
	小計	189,228	19.9
国 内	1級	28,637	22.3
	2級	9,395	27.3
	3級	5,005	3.6
	4級	2,729	7.4
	小計	45,766	19.9
合計	234,994	196,037	19.9

なお、2001年度の日語能力試験は12
月2日(日)に実施される予定です。

試験実施の詳細については、7月頃に

*この欄にふさわしい情報やニュースがありましたら、下記までお寄せください。

国際交流基金日本語国際センター情報交流課

〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36

Research and Information Division, The Japan Foundation Japanese-Language
Institute, Urawa, 6-36 Kita-Urawa 5-chome, Urawa-shi, Saitama 336-0002, Japan

下記までお問い合わせ下さい。

国外：

国際交流基金関西国際センター試験課

〒598 0093大阪府泉南郡田尻町

りんくうポート北3 14

Tel : 0724 90 2603

Fax : 0724 90 2803

E-Mail : jlptinfo@jpf.go.jp

国内：

財団法人日本国際教育協会

事業部日本語・統一試験課

〒153 - 8503東京都目黒区駒場4 5 29

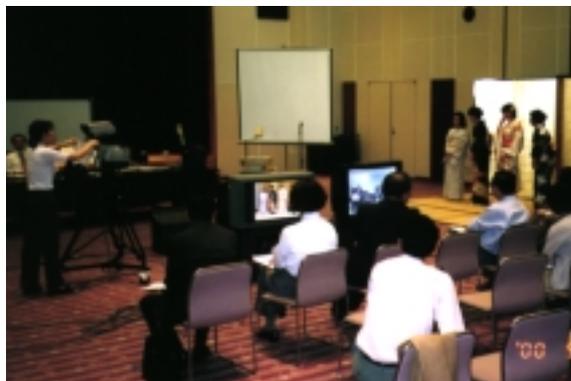
Tel : 03 5454 5215

Fax : 03 5454 5235

衛星通信を用いた日本事情の授業

当センターは、平成9年度からポスト
パートナーズ計画の実験に参加していま
す。これまでは、海外のセンターや大学
などと、会議や研修修了生へのインタ
ビューなどをやってきましたが、平成12
年度の実験では、9月14日
に、フィリピンのアテネオ・
デ・マニラ大学と衛星を用
いた初の遠隔日本語授業を
実施しました。来日経験の
ない初級レベルの日本語学
習者を対象に、日本事情紹
介を目的としたクイズ形式
の日本語授業を行いました。
出題は全部で12問、伝統文
化、食べ物、現代日本の流
行、漢字の知識など、問題

はいろいろでした。正解を示したあと、
振袖姿の女性の簡単な茶道デモンスト
レーションや、三味線の生演奏などを
取りこむことで、日本事情の知識のイン
プットも行いました。衛星を使用した授
業の将来性、可能性を探るという実験目
的のため、様々な機材を使って(実物投
影機、OHP、ビデオなど)映像にも様々
な工夫をこらしてみました。例えばきれ
いな桜の写真はどの程度見えるか、生
の三味線の音はどのように聞こえるか、ビ
デオの音とどう異なるかなどです。フィ
リピンの学習者の方々は、グループで相
談してクイズに答えましたが、とても高
い正答率でした。ここで問題を一部紹介
します。「生け花に使う器は次のうちど
れ?」「独身の女性が友人の結婚式に出
席する時に着る着物は次のうちどれ?」「
この楽器の音は鼓?三味線?笛」「日本
の4つのアニメのうち一番古いものは?
」...など。



編集部から

新しき 年の初めの 初春の

今日降る雪の いや重け吉事

これは、万葉集(奈良時代の歌集)の
最後を飾る大伴家持の歌です。お正月に、
降りしきる雪を見て作った歌で、「雪が
どンドン降り重なるように、よい事も
たくさん重なってほしい」という願いがこ
められています。1200年以上昔の歌で
すが、21世紀最初の「日本語教育通信」
発行にあたり、この歌をご紹介します。皆
さんの21世紀に、良いことがたくさんあ
りますように。

昨年秋に中国へ行く機会があり、小学

校や中学校、高校の日本語の授業を見学
しました。地域により、また学校のタイ
プにより、日本語学習の環境も目的も
様々でしたが、どの学校でも、生徒がと
ても熱心に授業を受けていたのが印象的
でした。また、日本へ行ったことはなく
ても、流暢に日本語を操る先生も多く、
日本語教育が、現場にいる熱心な先生
方に支えられているということ、あらた
めて認識しました。(情報交流課 亀山知美)

(お詫び)下記の2点につきお詫びいたします。

1. 第38号のp.10「ホテルの実務日本語1」の
著者として、共著者である和美・スイー
チャカフーン氏のお名前が欠落しておりました。
2. 第38号の表紙イラストでハングル文字を
掲載していますが、文字に間違いがありま
した。

『日本語教育通信』 第39号

2001年1月発行

発行・編集 国際交流基金

日本語国際センター 情報交流課

〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36

The Japan Foundation

Japanese-Language Institute, Urawa

(6-36 Kita-Urawa 5 chome, Urawa-shi,

Saitama 336-0002, Japan)

TEL 048 834 1184 FAX 048 830 1588

E-Mail jfnckt@jpf.go.jp

編集協力

財団法人 国際文化交流推進協会

Assoc. ACE Japan (Japan Association for
Cultural Exchange)

© 2001 by The Japan Foundation

(表紙イラスト：村井宗二)